

気仙沼大島漁業史文庫プロジェクト

被災資料の救出と将来に向けた 「大島漁協文庫」の活用

田上 繁

2015年度の活動

2011年3月11日の東日本大震災で被災した大島漁業協同組合文書の救出、保全作業を進めてきた本研究所では、これまでの文書救出というボランティア活動から、丘の上に新設される収蔵庫「大島漁協文庫」の開館を機に新たな研究拠点としての性格を持たせることとなった。そのためには、5,000点にも及ぶ救出資料の整理、目録作成作業が急務の事柄となる。早速、2015年8月1日より4日まで歴史民俗資料学研究所の院生諸氏とともに大島に出向き、大島開発センターにおいて資料整理、分類などの作業に着手した。

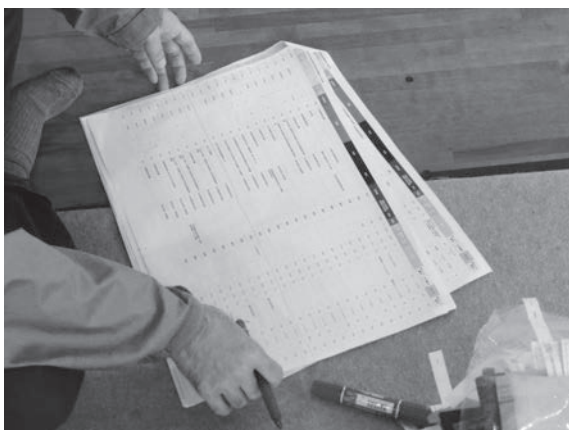


写真1 資料整理用の分類目録



写真2 資料の分類作業



写真3 漁業史文庫の棚へ資料を配架



写真4 大島で行われたシンポジウム

続いて、9月23日から27日までの日程により、地元の郷土史研究者千葉勝衛氏の分類方法に従い、同センターにて資料整理と分類の作業を進めた。「大島漁協文庫」が完成すると、一時的に大島漁業協同組合のワカメ集荷場に収納していた救出文書を「大島漁協文庫」へ移し、収蔵棚に開架した。加えて、この期間中、「大島漁協文庫」の未来に向けての「漁村文化と大島の未来」と題するシンポジウムを開催し、島の方々へ大島を今後新たな研究拠点に設定して研究を進展させる本研究所の取り組みについて理解していただくとともに、その周知を図った。またこのとき、共同研究「海域海村の景観史に関する総合的研究」の調査も併せて行っている。

また、2016年2月23日より26日まで再び大島に赴き、文書のファイリングの作業を行った。併せて、救出資料と同様、「大島漁協文庫」に収納された旧大島村の行政文書についても開架作業を進めた。この調査期間中に、大学の鈴木陽一副学長列席のもと、「大島漁協文庫」の落成式が挙行され、地元の関係者各位とともに大学の調査参加者も式に加わった。

大島漁協文庫建設班 2015 年度の活動

重村 力

2015年度は、4月から5月早々に建て方と設計案との調整をまとめ、工事総額の見積もりを行い、協力業者と調整した。建築確認を6月に申請し、工事契約を締結した。6月22日に敷地で地鎮祭を行い、6月27日に着工した。節目節目に学生たちのワークショップ（WS）を行って工事を進めた。7月18日から21日には棟上げWSを行い、島民約70名が集まったの棟上げ式（7月21日）と餅まきにこぎ着けた。8月19日から21日には間柱立てや壁貼りのWS、9月7日から9日には床張りWSを行い、毎回10数名の学生が集まった。9月19日から23日は、公民館も利用して書架や照明器具制作のWSを大学院生らと行い、搬入設置された書架に歴民の院生たちが資料を配架し、9月26日の第2回シンポジウム「漁村文化と大島の未来」に文庫のお披露目をする事ができた。12月12日から14日にはガラスに切り紙細工の装飾を行うとともに、家具の組み立て設置WSを行い、2月24、25両日にも家具の設置、外構の整備WSを行い、大島漁協文庫はようやく文書所蔵・資料整理・研究討議などの拠点として整備された。



写真5 学生と専門家のコラボによる棟上げ



写真6 完成した『大島漁協文庫』